

石井 顧問弁護士にはお世話になっていますが、職員弁護士は在職していません。それとは別に、藤原唯人先生が教育委員を務めて下さっていますが、様々なご意見やご唆をいただいております、教育委員の枠にとらわれず大いに刺激を頂戴しているところです。

津久井 一方、注文などはないでしょうか。

石井 現実に市政に携わっていると、無理難題を代弁するような場面で弁護士さんが登場する場合があります。やむを得ないと思う場合もありますが、無理であることが分かっているがどうしても引き受けたのか真意を知りたいときも正直あります。

津久井 確かに、弁護士が政策形成のための手段として法的手続に及ぶこともあります。弁護士も市民社会の構成員の一人として、社会の信頼を意識することも重要ですね。

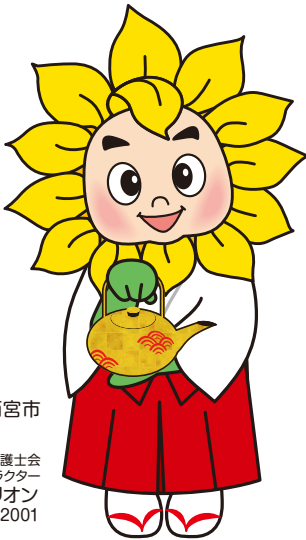
石井 とはいえ、現場では、ほかにもリーガルなサポートを必要とする場面が多々あります。児童福祉とか、社会福祉などはもちろん、コロナ対策では職員に対して厳しい矢が向けられることもあります。部署を超えた課題の中には、リーガルな側面があると思います。先日は、弁護士会の阪神支部の支部長のご挨拶もいただきましたが、連携の必要を感じています。

津久井 私たちも課題解決に向けて力を尽くしたいと思います。今日はありがとうございました。

(対談日 2021/11/8)

日本酒乾杯条例のあるまち 西宮市

兵庫県弁護士会
イメージキャラクター
ヒマリオン
Since2001



るような感じです。被災地でピアノコンサートを開いた第1陣の応援職員は、今も個人的に支援を続けていますが、こうしてつながり続けるご縁を大切にしたいと思います。

津久井 災害対応などの危機管理のノウハウはコロナ対応でも生かされていませんか。

石井 阪神・淡路大震災のとき、西宮市は情報システム課の熱意でいち早く震災業務支援システムを立ち上げました。その後の全国の被災者支援システムの原型にもなっています。情報システムの構築が市民の命を守るという西宮市の教訓です。今回のコロナ禍でも、kintoneというクラウド型のデータベース構築サービスを使っていち早く立ち上げ、感染者の症状の管理を迅速に行い、重症者への早期対応を可能にしました(※写真参照)。医療崩壊の防止に寄与したと思います。

経費項目	区分	経費項目	区分	経費項目	区分	経費項目	区分	経費項目	区分
100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000
100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000
100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000
100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000
100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000
100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000
100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000
100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000
100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000

キントーン画面

■弁護士への期待と注文

津久井 西宮市の弁護士という社会リソースの活用についてはいかがですか。



最後まで頑張ります！

兵庫県弁護士会 副会長 曾我 智史

副会長の曾我です。副会長の職務はあと4ヶ月になりました。副会長をしないかと声がけいただいたのはちょうど1年前ですが、あっという間でした。津久井会長はじめ他の役員や弁護士会の職員から日々支えられながらではありますが、これまでにない貴重な経験をさせていただいております。任期終了まであと少しですが、最後まで駆け抜けたと思います。

石井登志郎さんは、衆議院議員を経て、2018年4月から西宮市長に就任し、県内3位の約48万人を数える中核市の顔役を務める。「古典に学ぶ民主主義の処方箋」(2016年)、「モヤモヤが一気に解決!親が知っておきたい教育の疑問31」(2017年)等の著書があるとおり、民主主義を深く学ぶ勉強家であり、数年前には教員免許を取得するなど実践家でもある。弁護士に対する期待や注文などをお聞きました。



■シチズンシップの醸成を目指して

津久井 インタビューにあたって、石井さんの『古典に学ぶ民主主義の処方箋』をあらためて拝読し、民主主義への造詣の深さや熱意に敬服しています。市長に就いて、行政の長として地域社会の民主主義の実践に取り組まれた手応えをお聞かせ下さい。

石井 今春、西宮市の教育大綱を改定しました。子供たち・大人たちそれぞれに向けて、シチズンシップの醸成を目指して、「自分で考え」「挑戦する勇気」「立ち上るたくましさ」「社会の一員としての行動」等のメッセージを込めました。一人ひとりの市民が主役になり、行政に依存するのではなく、自ら汗をかき、行動していく民主主義の第一歩になればと願っています。

津久井 市民の多くは、民主主義というと、イコール選挙と考えていると思いますが。

石井 選挙は民主主義のワンシーンに過ぎません。津久井さんも著書をお読みいただいたので、アレクシ・ド・トクヴィルが「アメリカのデモクラシー」で語ったことはご存知かと思います。欧州の階級社会と違い、アメリカには社会的権威も階級もなく、自分たちで行動し、自分たちでルールを決め、自分たちで実行していた。橋を架け、生活を維持するなど、あらゆる場面でそうなっているので、何か事を起こすときには、互いに相談し、つながり合って取り組んでいた。私たちが他国の民主主義から学ぶべき点は多々あると思います。

津久井 日本は、まだまだ建国当初の理想的なアメリカ型の民主主義には遠く及びませんか。

石井 たしかに時代劇を見ると、「お代官様!」と懇願するシーンが出てきますが、これは階級を前提にしたものですね。でも、阪神・淡路大震災のとき、ガレキの中から人々を助け出したのはご近所の方々でした。危機を前にし

て、役所に頼らず自分たちで実践したひとつの象徴です。西宮市では、西宮北口駅周辺や森貝地区など大規模な復興事業がいくつも展開されましたが、この復興の足跡が、市民が主体的に関わった証だと思っています。

津久井 目に見える形って大事ですね。

石井 そうですね。小さな取り組みですが「どうぞベンチ」があります。市民の方々からの寄付を募り、市民の方々の要望に応え、市民の方々が一休みできるベンチを設置するアイデアです。昨年度は市内3箇所に設置し、今後増設していきます。高齢者・障害のある方・妊婦の方々をはじめ、市民が暮らしやすくお出かけが楽になるまちの象徴になればと思っています。そのほか、子ども食堂の活動への補助制度も立ち上げましたが、同じような視点に基づいています。

津久井 私たちは何をめざしていったらいいでしょうか。

石井 主役である市民が声を上げる。やがて、それがムーブメントになる。しかし現在の法律では対応できないという困難にぶつかる。それを市民の行動で解決していく。市は予算を付けるなどで実現を支える。時には市民自身がルールメイキングにも関わる。そこから得た教訓を子供も大人も学んでいく。そうすることで、市や議会も変わっていくのだと思います。

■連綿と続く災害対応の姿勢

津久井 震災の話が出ましたが、西宮市は、これまで宮城県南三陸町や女川町への職員派遣など東日本大震災の被災地への応援を行い、今も一部は続けていますね。

石井 阪神・淡路大震災で大変な思いをした阪神間の自治体は自ら進んで応援に行きました。当時、お世話になったという思いがあり、だから東北の被災地にも進んで出向いたのでしょう。帰ってきた応援職員の貴重な経験が後輩達にも語り継がれ、受けた恩が輪廻のように回ってい